藤沢
エコネット
藤沢環境運動市民連絡会議
（略称）藤沢エコネット

2024年9月1日
第364号

主な記事
- 総会の報告
- 水を守ることは　いのちを守ること

http://econet2015.sakura.ne.jp
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳
☎／ＦＡＸ　0466−87−4922

原発再稼働への疑念

原子力規制委員会は７月26日、日本原電敦賀発電所２号機は「原子炉建屋の真下に存在する活断層が動く可能性を否定できない」ことから新規制基準に適合しないとし、再稼働に待ったをかけました。原発再稼働の不合格はこれが初めてのケースでした。

東日本大震災で福島第一原発が炉心メルトダウンと水素爆発を起こしました。この重大事故を契機に原子炉の審査基準が見直され、既存の５７基の原発はすべて新しい基準への適合が審査されることになりました。そのため 24 基は再稼働をあきらめ廃炉となりました。一方、１２基は新基準をクリアして再稼働し、残りは審査準備中または審査中です。

そんな折り、志賀原発は再稼働に向け準備中（2 号機は審査待ち）でしたが、能登半島地震により変圧器が損傷し５回線中２回線の外部電源を失うという事故を起こしました。地震の程度も、そしてその程度の揺れで変圧器が損傷したことも「想定外」で片付けることはできません。

原発再稼働に際して厳しく審査され、問題があれば十分な対策がとられるとしても、原子力が安全となった訳ではなく危険な方法です。低濃縮ウランを燃料に使う場合でも使用済み核燃料の冷却期間は 10 年、MOX 燃料の場合にはそれをはるかに超える期間の冷却が必要と言われています。さらに日本は今後多数の原発の解体が課題とりますが、解体に 30 年～４０年を要し、廃炉に伴う高レベル放射性廃棄物の長期保管には膨大な設備が必要です。このように原発は他の発電方法では問題とならない安全性を確保するためのコストが必要となります。原発は付随するプロセスで膨大な二酸化炭素を放出し、自然破壊を伴うこと必至です。

現在、経済産業省は第７エネルギー基本計画の検討に入っています。当然、地球温暖化への対策が最大の課題です。第６次計画では原子力が20～22%と高い比率ですが、原発を全廃し再エネを最大限利用するという選択肢も検討されるべきです。

近く予想される総選挙の争点の１つとして大いに議論されることを希望します。

（菅谷　芳雄）

（2024 年８月の雲と富士山）

2024 年度藤沢エコネット総会報告

総会が７月 21 日開催され議案が採択されました

• 2023 年度活動報告(2023.5～2024.4)

藤沢エコネット(藤沢環境運動市民連絡会議)は市内環境情報の交換を目的とした会で、1994 年より毎月ニュースを発行、30 周年を迎えました。

１． 地球温暖化防止活動

2021 年に藤沢市気候非常事態宣言が発出され、市は2030年までに46%減（’13年比）を目標に、不十分ではあったが、国の再エネ推進補助制度を獲得するなど一歩づつ進め’24 年４月に組織体制を一新、人員を増やし温暖化対策に力を入れた。

藤沢エコネットが協力する「NGO 気候危機アクション藤沢」は、’22 年４月から毎月気候時計スタンディングを始め’24年１月以後隔月に六会藤沢湘南台駅前で宣伝を行っている。

気候時計宣伝のため、市役所エレベータ前のサイネージ映像画面に掲載の要望をおこない、準備をして作成し、’24 年６月に掲載が実現した。

２．バイオハザード問題

藤沢エコネットが協力する「武田問題対策連絡会」は、湘南ヘルスイノベーションパーク（略称湘南アイパーク）の遺伝子組み換え実験の安全操業を求め、見守りを続けている。湘南アイパークの土地建物全てを‘20 年武田薬品工業（株）は三井住友信託銀行に売却し、‘23 年４月、運営は３社（武田薬品 IIF（産業ファンド投資法人）三菱商事）でつくった新会社アイパーク・インスティテュート（株）に移った。約150社（研究部門30%）勤務者２千人。

武田問題対策連絡会は藤沢市を通し、湘南アイパークに質問と要望をおこない、安全対策を求めた。

３．原発問題

2011 年の東電福島原発事故後、原発稼働ゼロだったが、2015 年に九州電力川内原発が再稼働、現在 12 基が稼働。廃炉は２４基。原発ゼロ基本法案を2018 年野党 4 党が提出したが、審議されず。

政府は’23 年２月「GX（＊）実現に向けた基本方針」を閣議決定、原子力を活用、原発運転 40 年、延長 20 年とした。資源エネルギー庁は、原発比率は’30 年に 20～22%を目標としている。

（＊GX（グリーントランスフォーメーション）脱炭素社会にむけて再生可能でクリーンなエネルギーを利用する取組み）

福島原発事故から何も学んでいない。事故から 13 年、避難者はピーク時に約１６万５千人だったが、現在も福島県内外に２万 ６ 千人もいる。福島県の児童甲状腺ガンは約 370 名、増え続けている。

エコネットが協力する「福島の子どもたちとともに・湘南の会」は、’23 年コロナ禍、各家族のリフレッシュ活動を応援し、20 家族に助成。’24 年３月には「ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南(第１６回)」が実現、３家族 10 人を招いて喜ばれた。

2011 年より毎月空間放射能測定を行い、時々ニュースに掲載している。

４．大気保全活動

エコネットが参加している「藤沢の空気を考える会」で６月12月に NO2 簡易測定調査をした。６ 月平均は 0.058ppm（環境基準 0.04～0.06ppm 以下）で環境基準内。最悪値は大庭トンネル 0.20ppm だった。

コロナ禍で、アレルギーぜん息統計を‘20’21’22 年度はしていないとの市の説明。大事な統計なので是非来年度からは実施してほしいと要望。

５．開発問題その他

村岡新駅建設に県が３０%JR が１５%藤沢市鎌倉市が 27.5%づつ拠出予定。駅舎のみで約 150 億円、周辺開発費を入れると 400 億円？にもなる。’３２年完成予定。駅の予定地は軟弱地盤なので、工事に更に増額が予定されている。凍結が望ましい。PFAS についても取り上げた。

６．環境情報交換活動

1994 年からエコネットニュースを毎月発行し、2024 年５月で 360 号になり、30 周年を迎えた。４図書館に配架、議会、市の関係部署に届けている。

●事務局会議　毎月第１土曜　●HP　ニュース前月号までを掲載　●WEB 会員　ニュースをメール配信。

●ニュース毎月発行　2023 年５月号（348 号）～2024 年４月号（359 号）毎月４３０部発行。

●2023/１１/３　ふじさわ環境フェアー（市主催）に展示参加　企画実行委員として参加した。

･2024 年度藤沢エコネット活動計画

１．情勢と方針

①地球温暖化問題は環境の中心的課題である。人類の未来が関わっていて一刻も猶予できない。

グレーテス国連事務総長の 2024 年６月の演説「真実の時」の概要は次のようです。『地球温暖化を 1.5 度に抑えるというパリ協定から 10 年近く経て、この目標は危機に瀕しています。1.5℃に抑えるために残された炭素予算は約 2000 億トン。ところが年間 400 億トンの二酸化炭素を排出し続けています。このままでは 2030 年になる前に炭素予算が尽きてしまいます。2030 年まで排出を９%づつ削減する必要があります。1.5℃高くなる可能性は 5 分 5 分です。真実とは、1.5℃をめぐる勝敗が 2020 年代、すなわち今日の指導者たちがいる間に決着するでしょう。』

日本は「GX 実現に向けた基本方針」という、原発に頼る方針を打ち出したが、この地震国日本で通用するとは考えられない。脱原発、再生可能エネルギーを大量に増やして、省エネ、石炭火力発電所を止める事である。資源エネルギー庁は、第 7 次基本計画を審議中で、今秋のパブコメに参加しましょう。

藤沢市は、2021 年気候非常事態宣言を発出し、2050 年までに二酸化炭素排出ゼロを目指すとした。そして 2030 年までに温室効果ガス４６%削減（2013 年度比）とし、太陽光発電普及、断熱材普及、省エネ等に取り組んでいる。

藤沢エコネットは NGO 気候危機アクション藤沢とともに、市のカーボンゼロ政策に向けて学習し、気候時計を広め、必要な提言などをし、国のパブコメに参加する。

②戦争は最大の環境破壊・人権破壊である。

2022 年２月、ミンスク合意が７年履行されない中で、ロシアがウクライナを侵略・侵攻し、2 年半経る現在も続いている。国連総会でロシア非難決議が採択されたが、プーチンロシア大統領は侵略を止めず、核までちらつかせている。

2023 年 10 月、パレスチナの組織ハマスがイスラエルを攻撃し多くの兵士や民間人が人質にされた。イスラエルが反撃、空爆し、ガザ地区を封鎖した。そしてガザ北部から南部へ住民 110 万人を退避させ、南部を攻撃するという非人道的暴挙をおこなっている。

日本では平和安全法制（戦争法）が 2015 年に成立、憲法を改正し自衛隊を書き込もうとしている。改憲に伴う国民投票法が成立、憲法審査会が開かれている。政府は軍事費 2 倍を米国に約束し、大軍拡をすすめ、24 年度軍事費は過去最大７．９兆円とした。先の戦前の様相に近くなりつつある。

戦争は最大の環境破壊、藤沢エコネットは平和運動に協力しニュースに平和問題を掲載していく。

③原発は現在１２基が稼働中であり、政府は原発をベースロード電源として２０%使用しようとし、GX（グリーントランスフォーメーション）の為と称して、原発回帰をし、次世代型革新炉の開発、40 年、長くて 60 年稼働としてきたのを、更に延長しようとしている。ドイツは’23 年４月脱原発を達成した。地震国日本では環境安全上、平和安全上脱原発を決断すべきである。

④バイオハザード他　バイオハザード、あふれるプラスチック、電磁波の影響、PFAS、農薬の危険など身近な環境汚染がある。ニュースに取上げ問題にしていく。

２．活動計画

･例会･事務局会議　毎月第1土曜

･ニュース発行　毎月発行 430 部

･ホームページ更新　前月号までを掲載

･環境講座･上映会･見学会開催　「第 5 福竜丸」上映　横浜ノースドッグ見学会、パブコメ参加ほか

･ふじさわ環境フエア　企画実行委員として取り組む

藤沢エコネット ２０２3年度決算書 及び24年度予算案

収入の部　　単位：円

項目	決算	備考		24年度予算案
繰り越し	37,381	繰り越し		27,019
会費	150,000	77 口		140,000
寄付収入	26,680	寄付		37,981
事業収入	0			25,000
雑入	0			
合計	**214,061**			**230,000**

支出の部

項目	決算	備考		24年度予算案
講師謝礼	0			20,000
会場費	5,000	会議室　ロッカー代等		5,000
印刷費	30,270	印刷 コピー代		35,000
通信費	129,783	メール便　振込手数料		140,000
消耗品	16,989	封筒　ラベルシール		15,000
雑費	5,000	No２測定器分担		3,000
次期繰越	27,019			12,000
合計	**214,061**			**230,000**

水を守ることは　いのちを守ること

1981年に前身の藤沢市洗剤対策協議会が発足され、せっけん推進活動は40年が経ちました。現在コロナ禍を経てようやく元の活動が戻ってきました。公民館まつりや環境フェア、消費生活展では、展示や“コネコネせっけん”等のワークショップを実施し、他にも学校や地域団体の環境学習会の講師としてのご依頼もいただいています。「藤沢市立小学校の給食施設では食器や器具の洗浄もせっけんを使用していること」や、「せっけんの優位性」を広く市民に紹介しています。

協議会の活動としては、6 月の環境月間に合わせ、市役所本庁舎ロビーにて、『ふじさわせっけん展』としてパネル展示をしています。また 7 月のシャボン玉月間には、藤沢市民会館にて『せっけんまつり』を 4 年ぶりに開催しました。市民への啓発のほか、出展するせっけんメーカーや関連団体との交流も目的としています。来たる10月26日(土)には、せっけん講演会として、『“クリーニング屋さんが教えてくれる”魔法の洗濯術』を開催します。せっけんの驚きの汚れ落としの実演や、洗濯のお悩みも解消できます。

こうした協議会の活動は対外的にも評価され、“せっけん運動ネットワーク”開催の全国大会である『シャボン玉フォーラム』等に参加すると「藤沢市は行政と市民が協力してせっけん推進活動をしている環境都市」として広く認知され評価を頂いています。行政と共に歩んでいる活動は今後も継続していきます。

今年は新たに「水を守ることはいのちを守ること」をキャッチレースに『せっけん学習パンフレット』(1部 300 円)を発行しました。せっけんの歴史や、水循環についてなどを、イラストをふんだんに使って分かりやすく描いており、今後の学習会などで使用していきます。

(藤沢市せっけん推進協議会　　金山喜代美)

ECONET　INFORMATION

▲2050 年ゼロカーボン都市藤沢を目指して

藤沢市の CO2 排出現況とゼロ排出へのシナリオ
９月23日（月祝）14:00～16:00
藤沢市総合市民図書館ホール　資料代　５００円
リモート（ZOOM）参加：無料
講師　歌川学（産業技術総合研究所主任研究員）
主催　気候危機アクション藤沢　協賛　藤沢エコネット
申込　kohei@papa-e.com

▲平和憲法の碑を建立する会

報告会
９月８日（日）14:00～15:45
９月11日（水）10:30～12:15
特別報告「核兵器廃絶と気候正義」武本　匡弘
エコストアパパラギ　2階　資料代　２００円
申し込み　０４６６-５０-０１１７

▲ふじさわ平和文化展　10月８日～13日

藤沢市民ギャラリーODAKYU 湘南 GATE6F
第３展示室　１０時~１９時
主催　ふじさわ平和文化展実行委員会　44-5067

▲脱炭素チャレンジカップ２０２５

募集締め切り　本選エントリ　９月30日（月）
アイデア賞　11月20日（水）
開催２月20日　日本科学未来館(東京都江東区青海)
脱炭素チャレンジカップ事務局 zccc@zenkoku-net.org

▲藤沢エコネットから

◆会員募集　年会費・購読料→２０００円
◆事務局会議　10月５日(土)10:00～
六会公民館
会費未納の方、納入をお願いします。

《編集後記》
史上最も暑かった今年の夏、この１０年間、年々増す夏の暑さにより、私たちの生活は大きく変化。
年間の猛暑日8.3日→19日。熱中症搬送人数４万４８人→8万３２３８人（東京都）
９月になっても「熱中症の危険性が高い状態が続く」と気象庁発表。地球温暖化の影響である。
IPCC（気候変動に関する政府間パネル）はこの温暖化は人間活動によると断定。
人間がやったことなら、食い止めるのも私たち人間の力で実現したいもの。（K）